

CCUS早期社会実装のための脱炭素・循環型社会モデル構築事業 (一部経済産業省連携事業)



【令和2年度予算(案) 7,500百万円(7,220百万円)】

CCUS(CO₂の分離回収・有効利用・貯留)の技術等の確立を行います。

1. 事業目的

CO₂回収・有効利用・貯留(Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage; CCUS)の早期社会実装のため、2023年までに日本初の商用化規模の技術確立し、普及に向けた取組を加速化する。

2. 事業内容

脱炭素化のためには、CO₂排出削減に努めるとともに、排出されたCO₂を回収・有効利用・貯留するCCUSの社会実装が必要。このため、以下の事業を実施する。

(1) 二酸化炭素貯留適地調査事業(経済産業省連携事業)

海底地質の詳細調査を実施し、CO₂の海底下貯留に適した地点の抽出を進める。

(2) 環境配慮型CCS実証事業

CO₂分離回収設備の建設・実証により、排ガス中のCO₂を分離回収する場合のコスト、環境影響等の評価を実施する。また、社会実装に向けた分析・啓発等を通じ、我が国に適した円滑な導入手法を取りまとめる。

(3) CO₂の資源化を通じた炭素循環社会モデル構築促進事業(経済産業省連携事業)

炭素循環のモデル構築にあたり、①産業施設等の排ガスや周辺大気から回収したCO₂を原料とした化学物質を社会で活用するモデル、②CO₂の資源化に適用可能な人工光合成技術を活用するモデルを構築し、CO₂削減効果等の検証・評価を行う。

3. 事業スキーム

- 事業形態 委託
- 対象 民間事業者・団体、大学、研究機関等
- 実施期間 平成26年度～令和4年度

4. イメージ

CO₂回収実証プラント
(回収能力: 500 ton-CO₂/日、稼働予定: 2020年)



日本初となる
実用規模の
CO₂回収実証
事業に取組中

廃棄物焼却施設等の排ガス中のCO₂を原料とし、水素・触媒等を利用したメタン・エタノール製造を実現

